

## 中国の落葉果実事情(リンゴ、ナシ、ブドウ)

米国農務省GAINレポート 2023年11月6日

これは米国農務省海外農業局北京事務所(中国)が作成した「落葉果実年次報告書」の一部を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

## &lt;リンゴ&gt;

表1 中国の生鮮リンゴの生産需給統計

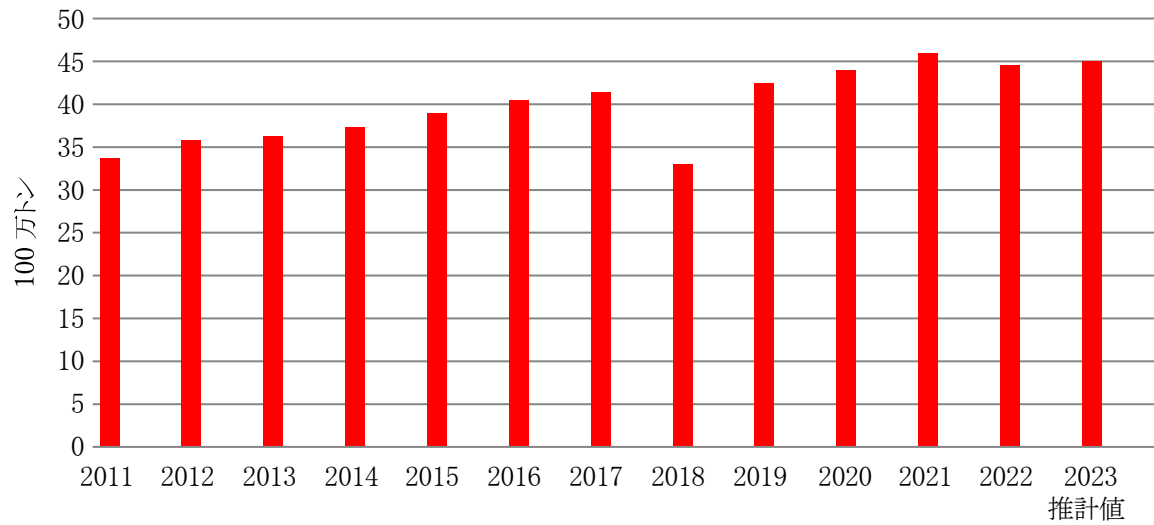
| リンゴ(生鮮)     | 2021/2022  |            | 2022/2023  |            | 2023/2024 |            |
|-------------|------------|------------|------------|------------|-----------|------------|
| 販売年度の始まり    | 2021年7月    |            | 2022年7月    |            | 2023年7月   |            |
| 中国          | 農務省公式      | 今回推計値      | 農務省公式      | 今回推計値      | 農務省公式     | 今回推計値      |
| 栽培面積(ヘクタール) | 1,975,350  | 1,975,350  | 1,935,000  | 1,955,800  | 0         | 1,935,000  |
| 収穫面積(ヘクタール) | 0          | 1,970      | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 結果樹本数(千本)   | 0          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 未結果樹本数(千本)  | 0          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 果樹本数合計(千本)  | 0          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 商業的生産量(トン)  | 45,973,400 | 45,973,400 | 41,000,000 | 44,500,000 | 0         | 45,000,000 |
| 非商業的生産量(トン) | 0          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 生産量合計(トン)   | 45,973,400 | 45,973,400 | 41,000,000 | 44,500,000 | 0         | 45,000,000 |
| 輸入量(トン)     | 74,600     | 74,600     | 85,000     | 95,300     | 0         | 76,000     |
| 総供給量(トン)    | 46,048,000 | 46,048,000 | 41,085,000 | 44,595,300 | 0         | 45,076,000 |
| 国内消費量(トン)   | 45,050,900 | 45,050,900 | 40,315,000 | 43,820,300 | 0         | 44,196,000 |
| 輸出量(トン)     | 997,100    | 997,100    | 770,000    | 775,000    | 0         | 880,000    |
| 市場からの隔離(トン) | 0          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 総仕向量(トン)    | 46,048,000 | 46,048,000 | 41,085,000 | 44,595,300 | 0         | 45,076,000 |

## 生産

当事務所は、2023/24年度(7~6月)の中国のリンゴ生産量を4,500万トンと推定する。これは、当事務所の2022/23年度の改訂推計生産量から1%の増加となる。4月下旬には、国内最大の産地である陝西省の一部で低温と降雹が発生したが、業界関係者らは、リンゴ全体の生産量は前年と変わらないと予測している。第2位の生産量を誇る山東省の果実生産者らは、春の受粉期に霜が降り、6月から7月にかけての果実肥大期に気温が高かったため、同省のリンゴ生産量は昨年より減少する可能性があるとして当事務所に語った。生産量で第3位の甘粛省の主要リンゴ産地では、4月28日に大規模な降霜に見舞われ、着果に深刻な影響が生じた。その結果、業界の推計によると、同州のリンゴ生産量は30%減少するものと見込まれる。山西省、河南省、河北省、遼寧省など他の主要産地では、概ね平常の生育条件で良好な収穫量が見込まれる。これらの地域での豊作は、甘粛省やその他の主な産地での減少を上回ると見られる。しかし、流通業者らは、果実肥大期の降霜、降雹、暑さなどの異常気象により、果実が小玉化して赤星病が発生し、リンゴの品質が全体的に前年よりも大幅に低下するだろうと報告した。当事務所は、中国のリンゴ生産量は、栽培面積の減少により、今後も横ばいか、緩やかに減少すると予測する。

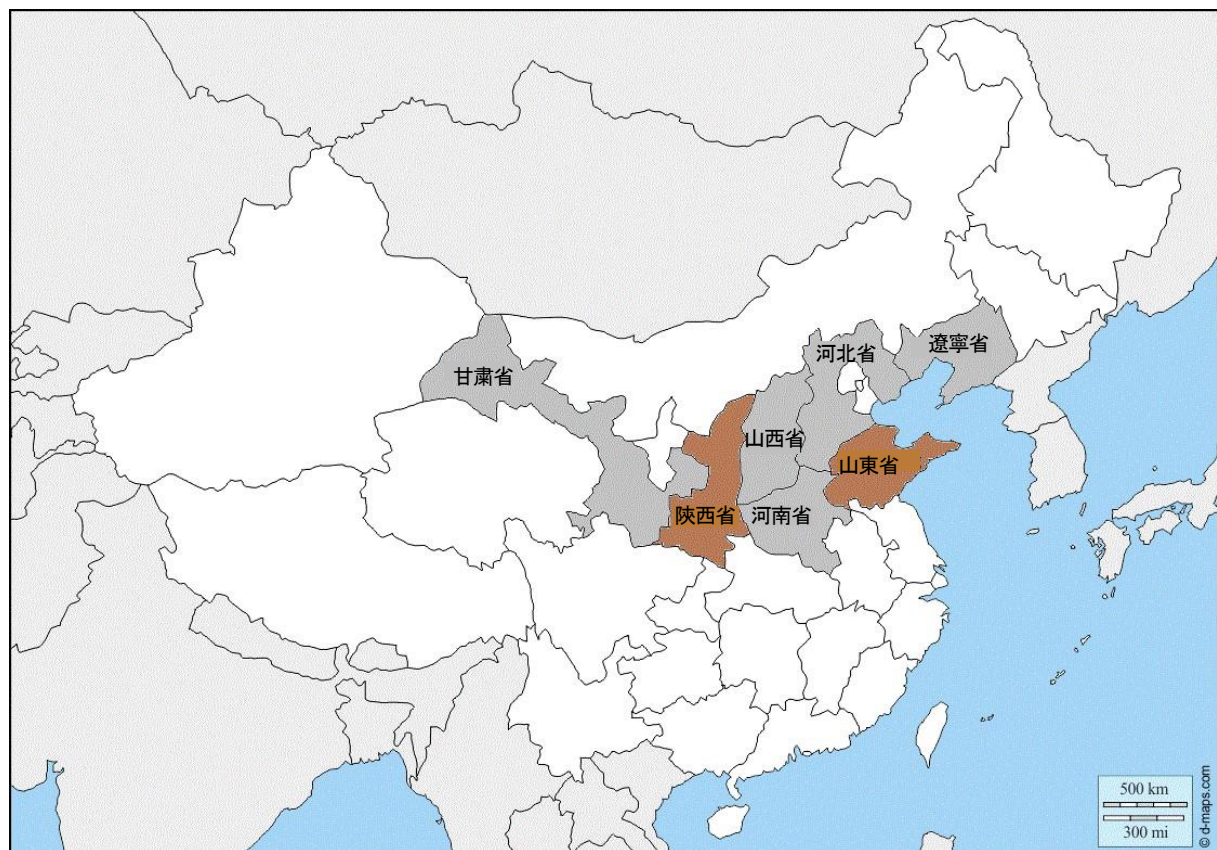
当事務所は、農地利用に関する政策の厳格化と生産性の低い果樹の転換により、2023/24年度のリンゴ栽培面積は、2022/23年度の改訂推定値196万ヘクタールから、194万ヘクタールにさらに減少すると予測する。国の食料安全保障政策は、(穀物地帯では)農地に果樹を植えないよう奨励している。その結果、河北省、河南省、山西省及び山東省の果樹栽培面積は2021年以降減少した。国の北西部の陝西省や甘粛省などでは、生産者が果樹園を更新し、古いリンゴの木を改植するよう地方政府が支援している。全般的に、リンゴ生産者らは、伝統的な産地、特に中国北西部の黄土高原と渤海湾周辺の省(地図1)では、栽培面積を増やすことなくリンゴの植栽を最適化するものと見られる。一方、新疆ウイグル自治区や、雲南省と四川省を中心とする南西部の高原地帯では、リンゴの栽培が増加している。

図1 中国のりんご生産量の推移



出典: 国家統計局(NBS)、当事務所

地図1 中国のりんご産地



茶色 = 中国の生産量の20%以上(陝西省、山東省)  
 灰色 = 5%～10%(甘肅省、河南省、山西省、遼寧省、河北省)  
 出典: 中国統計年鑑(2022年データ)

民間部門の投資の増加に伴い、りんご栽培では企業的な農場や大規模で専門的な農場が急速に出現した。農場の運営では通常、生産性と品質を向上させるために最新の生産方式と技術を採用している。例えば、矮化密植栽培モデルは、農業生産の機械化及び標準化の水準を向上させた。灌水と施肥の統合技術により、

施肥と灌水の効率が向上し、土壌の劣化が緩和される。矮化密植栽培モデルは、陝西省、山東省及び河南省で急速に拡大した。この方式を採用しているリンゴ園は、中国のリンゴ総栽培面積の約20%を占めている。しかし、ほとんどの生産者は投資を行う余裕がないため、依然として伝統的な果樹園で営農している。果樹の育種、生産、販売、流通における技術とサービスを提供する専門企業が出現した。流通業者らは、果実の品質向上と果実の取り扱いの効率化に取り組む専門企業が、中国の将来の果樹農業の発展を牽引する可能性が高いと指摘している。

ふじ品種は、依然として中国で栽培されている主要品種であり、すべてのリンゴの70%を占めている。また、生産者が10月に収穫する晩生品種が、80%の市場シェアを占めている。ほとんどの早生リンゴが貯蔵に適していないため、7月と8月に収穫される早生品種の開発はあまり進んでいない。中国の植物育種家らは、ヴィーナスゴールド、瑞雪、瑞陽、瑞香紅、明月(または名月)、魯麗など、ふじとはまったく異なる特徴を持つ新品種を開発または導入した。例えば、ヴィーナスゴールドは、その独特の風味と高い糖度で人気がある。しかし、これらの新品種の生産量はまだ少ない。新しい品種はより高度な農業技術と投資を必要とするため、ほとんどの生産者は伝統的なふじから転換しないことを選択している。

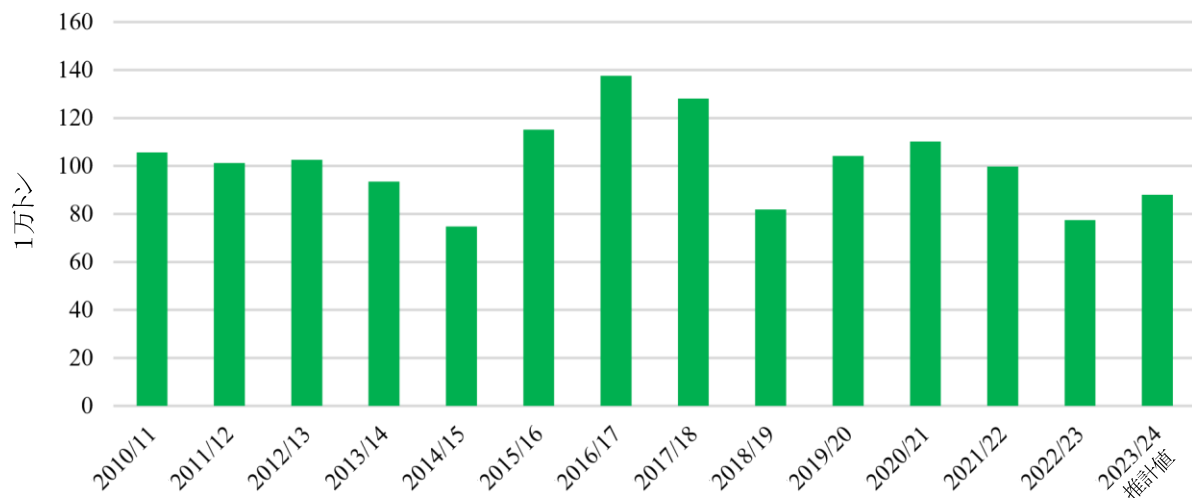
中国の果実生産は、人件費をはじめとする生産コストの上昇という深刻な課題に直面している。複数の報告書は、果樹生産者の平均年齢は60歳を超えているとしている。業界関係者によると、労働力不足はほとんどの果樹産地で発生しており、その結果、近年、人件費が急速に上昇している。当事務所の調べによると、山東省で果実の袋掛け、収穫、梱包を行う労働者の時給は15人民元(2.05ドル)に達している。さらに、肥料や農薬などの農業投入資材費や輸送費も前年より上昇している。

当事務所は、2022/23年度の推定リンゴ生産量を4,450万トンに改定する。業界は、悪天候による作柄の悪化はそれほど深刻ではなかったと報告した。

## 輸出

当事務所は、2023/24年度の中国のリンゴ輸出量は13%増の88万トンに回復すると予測する。リンゴの品質が低下したにもかかわらず、南アジアや東南アジアの国々は小玉のリンゴを好むため、これらの国々への輸出は増加すると見られる。また、地域的な包括的経済連携協定(RCEP)発効後のインフラ整備や通関手続きの迅速化も、中国と東南アジア諸国連合(ASEAN)加盟国との間の果実貿易を促進する。中国の2022/23年度のASEAN向けリンゴ輸出は、主に新型コロナウイルス関連の規制により道路輸送がブロックされたため、大幅に減少した。

図4 中国の販売年度別リンゴ輸出量



出典: Trade Data Monitor, LLC 及び当事務所

## <ナシ>

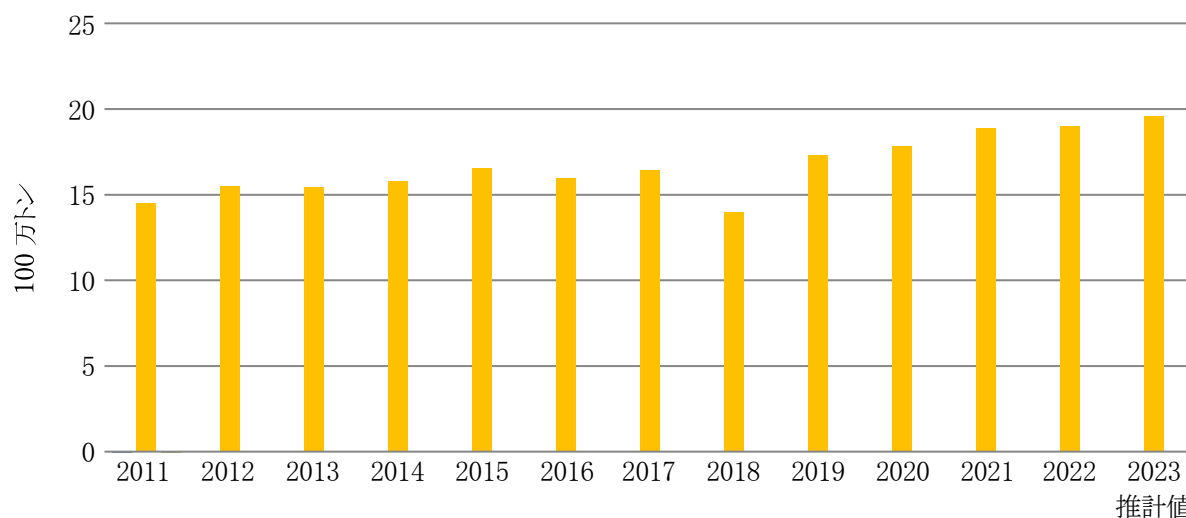
表2 中国のナシの生産需給統計

| ナシ(生鮮)      | 2021/2022  |            | 2022/2023  |            | 2023/2024 |            |
|-------------|------------|------------|------------|------------|-----------|------------|
| 販売年度の始まり    | 2021年7月    |            | 2022年7月    |            | 2023年7月   |            |
| 中国          | 農務省公式      | 今回推計値      | 農務省公式      | 今回推計値      | 農務省公式     | 今回推計値      |
| 栽培面積(ヘクタール) | 921,610    | 921,610    | 900,000    | 913,000    | 0         | 904,000    |
| 収穫面積(ヘクタール) | 0          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 結果樹本数(千本)   | 0          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 未結果樹本数(千本)  | 0          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 果樹本数合計(千本)  | 0          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 商業的生産量(トン)  | 18,876,000 | 18,876,000 | 17,850,000 | 19,000,000 | 0         | 19,600,000 |
| 非商業的生産量(トン) | 0          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 生産量合計(トン)   | 18,876,000 | 18,876,000 | 17,850,000 | 19,000,000 | 0         | 19,600,000 |
| 輸入量(トン)     | 10,600     | 10,600     | 12,000     | 16,500     | 0         | 20,000     |
| 総供給量(トン)    | 18,886,600 | 18,886,600 | 17,862,000 | 19,016,500 | 0         | 19,620,000 |
| 国内消費量(トン)   | 18,404,200 | 18,404,600 | 17,452,000 | 18,606,500 | 0         | 19,120,000 |
| 輸出量(トン)     | 482,400    | 482,000    | 410,000    | 410,000    | 0         | 500,000    |
| 市場からの隔離(トン) | 0          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 総仕向量(トン)    | 18,886,600 | 18,886,600 | 17,862,000 | 19,016,500 | 0         | 19,620,000 |

### 生産

当事務所は、2023/24年度(7月～6月)の中国のナシ生産量を、2022/23年度の改訂推計生産量から3%増となる1,960万トンと予測する。2023年夏の山東省の高温と干ばつなど、北部の産地における一部の異常気象を除いて、最大の産地である河北省等ナシを生産するすべての主要な省では、比較的平常の生育条件であった。山東省の生産者らによると、ナシの品質は全般的に良好で、特に市場で人気のある秋月(日本の品種)では望ましいものとなっている。当事務所は、中国のナシ生産量は今後数年間安定的に推移すると予測する。当事務所は、業界の最新の推計値に合わせて、2022/23年度のナシ生産量を1,900万トンに修正した。

図5 中国のナシ生産量の推移



出典: 国家統計局(NBS)、当事務所

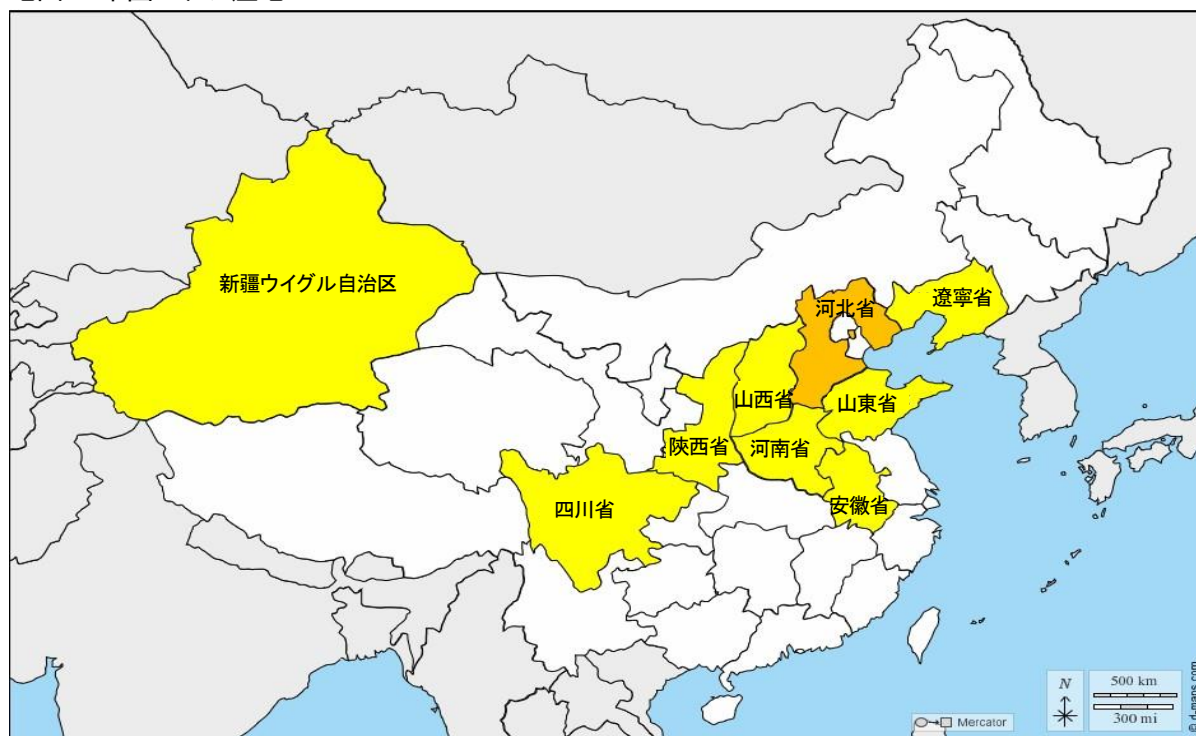
当事務所は、中国政府が農地利用を合理化し、食料と飼料穀物の生産に再び重点を置いているため、ナシの栽培面積は2022/23年度の91万3千ヘクタールから2023/24年度には90万4千ヘクタールまで引き

続き減少するものと予測する。地方政府は穀物の栽培面積を増やすため、農地に造成された果樹園を穀物などの作物に転換するよう生産者に促してきた。当事務所は、中国のナシの栽培面積は、農業政策と食料安全保障戦略の見直しにより、今後数年間徐々に減少すると予測する。

ほぼ全ての省でナシが栽培されているが、主な産地は中国北部と北西部、黄河流域及び長江流域に点在している(地図2)。中国の生産者は、鴨梨<sup>ヤナギ</sup>、酥梨<sup>スー</sup>、雪梨<sup>シユ</sup>、香梨<sup>シャン</sup>、皇冠梨<sup>ファンクワン</sup>、玉露香梨<sup>ユルウ</sup>、紅香酥梨<sup>ホンシャン</sup>、翠冠梨<sup>ツイクワン</sup>、翠玉梨<sup>ツイユ</sup>、南国梨<sup>ナンゴク</sup>など、歯ごたえのあるアジア品種を主体に数十種類を栽培している。近年、果実の育種家や研究機関は、サイズが大きく、糖度が高く、特別な風味で知られる秋月<sup>あきづき</sup>など、いくつかの新品種を導入している。この品種の栽培面積は、山東省、河南省、安徽省及び河北省で急速に拡大した。萊陽市<sup>ライヤン</sup>(山東省)の農民は、在来の「萊陽梨」のほとんどを秋月に転換した。

リンゴ部門と同様に、民間投資はナシ産業の農業慣行を改善する上で重要な役割を果たしている。高度な農業技術の採用により、果実の品質が大幅に向上し、有機肥料の施用により風味が改善した。しかし、これらの最新の生産方式には多額の投資が必要である。ナシ生産者は新品種の接ぎ木はいち早く行いが、多くの生産者は果樹園の施設の改善には投資しながらない。業界関係者らによると、生産者はむしろ、植物ホルモンや成長調整剤を使用して果実のサイズと生産量を速やかに増やしたいと考えている。

地図2 中国のナシ産地



オレンジ色 = 中国の生産量の10%~20% (河北省)

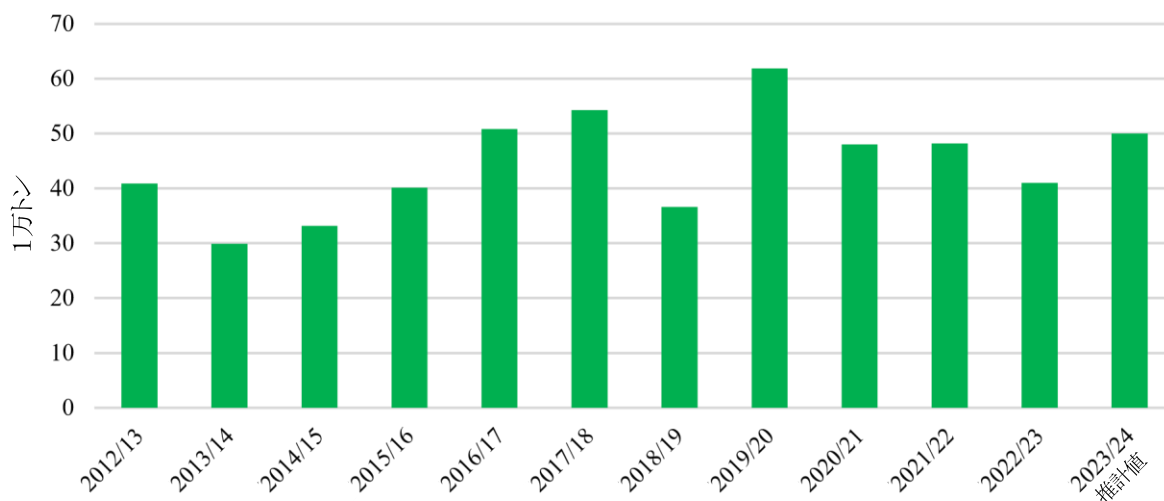
黄色 = 5%~10% (新疆ウイグル自治区、河南省、安徽省、山西省、遼寧省、山東省、陝西省、四川省)

出典: 中国統計年鑑(2022年データ)

## 輸出

当事務所は、貿易の流れを妨げていたコロナ禍関連の規制の撤廃に伴う物流の改善が主な要因となって、2023/24年度の中国のナシ輸出量は22%増の50万トンに回復するものと予測する。東南アジアの主要市場からの需要も回復している。

図7 中国の販売年度別ナシ輸出量



出典: Trade Data Monitor, LLC 及び当事務所

<ブドウ>

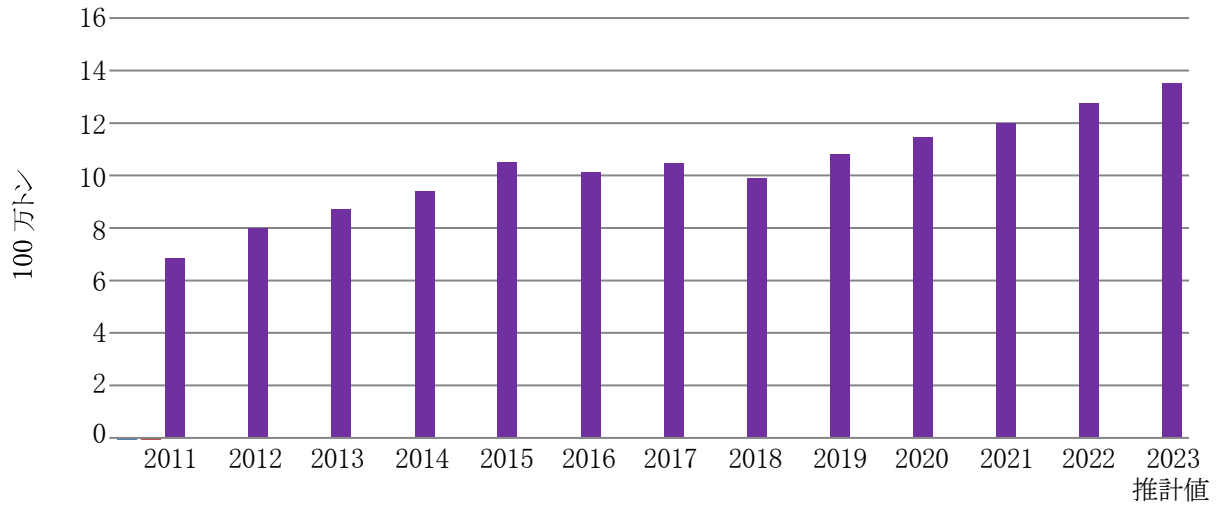
表3 中国の生食用ブドウの生産需給統計

| ブドウ(生食用、生鮮) | 2021/2022  |            | 2022/2023  |            | 2023/2024 |            |
|-------------|------------|------------|------------|------------|-----------|------------|
|             | 販売年度の始まり   |            | 販売年度の始まり   |            | 販売年度の始まり  |            |
|             | 2021年6月    |            | 2022年6月    |            | 2023年6月   |            |
| 中国          | 農務省公式      | 今回推計値      | 農務省公式      | 今回推計値      | 農務省公式     | 今回推計値      |
| 栽培面積(ヘクタール) | 733,000    | 733,000    | 730,000    | 730,000    | 0         | 728,000    |
| 収穫面積(ヘクタール) | 0          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 商業的生産量(トン)  | 11,980,000 | 11,980,000 | 12,600,000 | 12,750,000 | 0         | 13,500,000 |
| 非商業的生産量(トン) | 0          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 生産量合計(トン)   | 11,980,000 | 11,980,000 | 12,600,000 | 12,750,000 | 0         | 13,500,000 |
| 輸入量(トン)     | 181,100    | 181,000    | 180,000    | 175,000    | 0         | 120,000    |
| 総供給量(トン)    | 12,161,100 | 12,161,000 | 12,780,000 | 12,925,000 | 0         | 13,620,000 |
| 国内消費量(トン)   | 11,810,300 | 11,810,200 | 12,390,000 | 12,535,000 | 0         | 13,140,000 |
| 輸出量(トン)     | 350,800    | 350,800    | 390,000    | 390,000    | 0         | 480,000    |
| 市場からの隔離(トン) | 0          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0          |
| 総仕向量(トン)    | 12,161,100 | 12,161,000 | 12,780,000 | 12,925,000 | 0         | 13,620,000 |

生産

当事務所は、中国の2023/24年度(6~5月)の生食用ブドウ生産量を、2022/23年度の改訂推計生産量の1,270万トンから約6%増となる1,350万トンと予測する。主要なブドウ産地では、果実の生育期間中に大きな気象災害は発生していない。さらに、生産設備と技術の向上により、雨などの悪天候からブドウが守られ、その結果ブドウの品質は引き続き向上する。当事務所は、中国の生食用ブドウの生産量は、予見しうる将来において着実に増加するものと予測する。

図8 中国の食用ブドウ生産量の推移



出典: 当事務所

当事務所は、ブドウの栽培面積は2022/23年度の73万ヘクタールから2023/24年度には72万8千ヘクタールへとわずかに減少すると推定する。中国の従来からのブドウ産地は新疆ウイグル自治区と、中国北部及び南西部の高原地帯にある(地図3)。近年、ブドウの品種改良と栽培・管理技術の向上に伴い、中国のブドウ栽培はほぼすべての省に広がり、特に湖南省、江蘇省、浙江省及び広西チワン族自治区で栽培面積が急速に拡大し、雲南省でも極めて急速に発展を遂げた。一方、遼寧省、河北省、山東省では、生産政策の見直しによりブドウの栽培面積が徐々に減少しており、中国のブドウ生産は南方と西方にシフトしている。

巨峰とレッドグローブは、2品種合わせた栽培面積がブドウの総栽培面積の50%を超えるなど依然として2大栽培品種であるが、そのシェアは減少している。他の従来品種にはマスカットとサマーブラックがあり、それらの面積は非常に安定している。フレームシードレスやクリムゾンシードレスなどの種無し品種は着実に増加してきた。シャインマスカットの栽培面積は、この3年間で急激に拡大した。2022年からは、新品種であるクイーンニーナが登場している。

ブドウ生産者は、果実の生産量と品質を改善するために、より多くの生産設備と技術を取り入れている。山東省の果実生産者らによると、雨よけ施設がよく発達したことで、ブドウは病虫害の原因となりやすい雨から守られている。業界関係者らによると、ブドウの3分の1は、温室、ビニールハウス、雨よけ、その他の施設栽培で生産されている。業界関係者らはまた、将来はブドウの施設栽培がさらに拡大すると考えている。雲南省のブドウ生産者らは、美味で見た目のよいブドウを生産できるように、摘房と花穂整形に関する特別な技術を導入した。また、施設園芸と新しい育種技術の採用が貯蔵性の向上と相まって、国産ブドウの供給シーズンが延長されている。

## 輸出

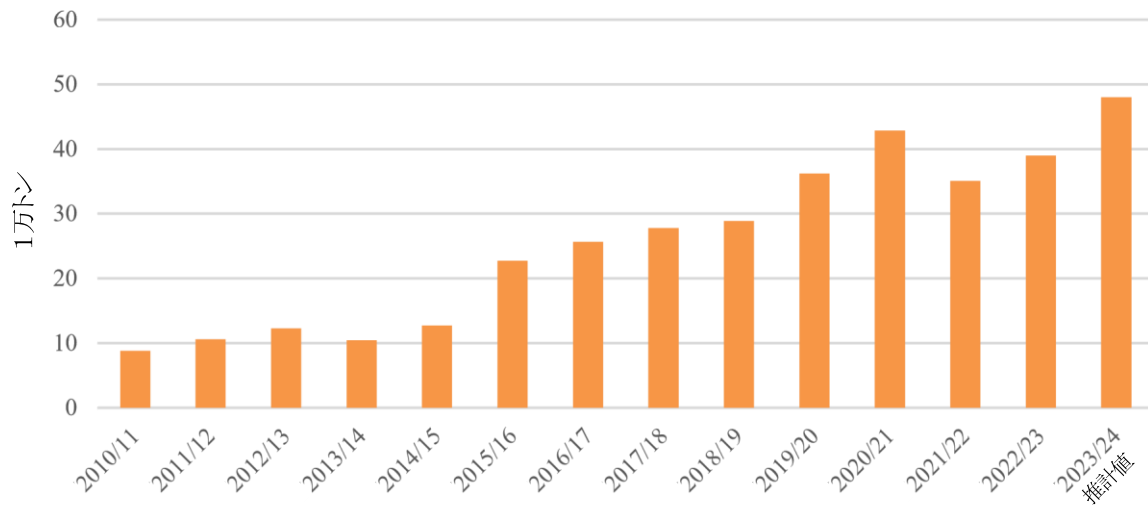
当事務所は、中国の2023/24年度の生食用ブドウの輸出量は引き続き増加し、23%増の48万トンに達するものと予測する。中国のブドウ輸出は2021/22年度にコロナ禍により一時的に減少した後、2022/23年度には回復に転じた。国内供給の改善と果実の品質の向上は、中国が近隣の南アジア、東南アジア、中央アジア市場へのブドウ輸出をさらに拡大するのに有用である。

地図3 中国のブドウ産地



紫 = 中国の生産量の20%以上(新疆ウイグル自治区)  
 グレー = 5%~10%(河北省、山東省、雲南省、河南省、陝西省、遼寧省)  
 出典: 中国統計年鑑(2022年データ)

図11 中国の販売年度別生食用ブドウ輸出量



出典: Trade Data Monitor, LLC 及び当事務所